

臨床検査に関するお知らせ

株式会社セントラル医学検査研究所／No. 2008-R15

先生各位

平成 20 年 5 月

A-08-15

検査受託中止のお知らせ

謹啓、時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さてこの度弊社といたしましては、梅毒の血清学的検査のリン脂質抗原を用いる STS 法として、より精度の向上を期し自動分析装置による RPR 法（ラテックス凝集比濁法）を実施することと致しました。これに伴い、用手法による梅毒ガラス板法を受託中止とさせて頂きたくご案内申し上げます。

尚、新法による梅毒脂質抗体検査の RPR 法は、梅毒の初期感染時の反応性が向上されていると共に治療効果を良く反映し、早期に陰性化するとの報告があります。

先生方には甚だご迷惑をおかけすることとなりますが、諸事情をご賢察の上何卒ご了承賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

謹白

記

◆ 実施日 平成 20 年 5 月 17 日（土）ご依頼分をもって受託中止

◆ 検査受託中止項目

2007 年検査案内	項目コード [※]	検査項目
p.41	13250	ガラス板法 定性
	13260	ガラス板法 定量

◆ 代替項目

2007 年検査案内	項目コード [※]	検査項目
p.41	13230	R P R 定性
	13240	R P R 定量

参考資料・参考文献は次面をご覧ください。

<参考資料>

梅毒ガラス板法とRPR法との比較

		RPR法		計
		+	-	
ガラス板法	+	2	3	5
	-	1	329	3
計		3	332	335

全体一致率 $331/335=98.8\%$ (n=335)

<参考文献>

- ※ 日本性感染症学会誌 Vol.17,No.11 (性感染症 診断・治療ガイドライン 2006)
- ※ 日本性感染症学会誌 Vol.13,No.1 (抗 TP 抗体測定用試薬の臨床的評価 大里和久 他)
- ※ 機器・試薬 26(4),2003 (メディエース RPR,TPHA を用いた梅毒病期の判別可能性について 大里和久 他)